

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

25年2月の牛肉生産量は前年同月比6.8%減、肥育牛価格も高値で推移

25年2月の牛肉生産量は前年同月比6.8%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年2月の牛と畜頭数は、牛群の縮小や、冬の悪天候により一部地域において家畜の移動が制限されたことに加え、うるう年であった前年同月に比べてと畜日数が減少したことにより、232万4000頭（前年同月比11.1%減）とかなり大きく減少した。一方、同月の1頭当たり枝肉重量は396.4キログラム（同4.8%増）とやや増加した。この結果、同月の牛肉生産量は91万6000トン（同6.8%減）とかなりの程度減少した（図1）。

25年の牛肉生産量についてUSDAは、前月

予測から5万4000トン引き下げた1210万4000トン（前年比1.1%減）と見込んでいる。

25年2月の肥育牛価格、前年同月比13.1%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年2月の肥育牛価格は100ポンド当たり205.30米ドル（1キログラム当たり681円：1米ドル＝150.52円^{（注1）}、前年同月比13.1%高）とかなり大きく上昇した（図2）。牛飼養頭数の減少に加え、25年2月に一部再開しているものの、メキシコからの生体輸入の禁止の影響を受けていることが、価格を押し上げている要因とみられている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年3月末TTS相場。

図1 牛肉生産量の推移

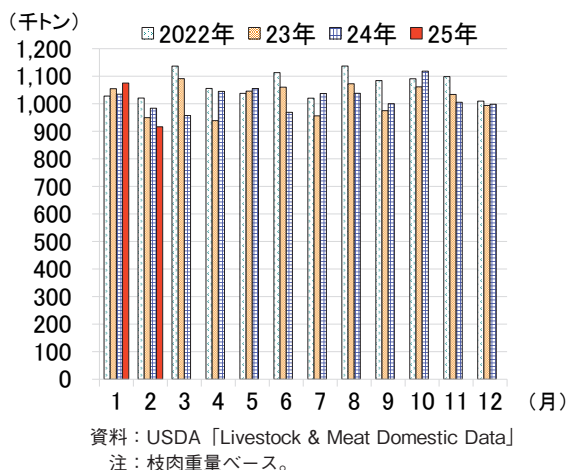
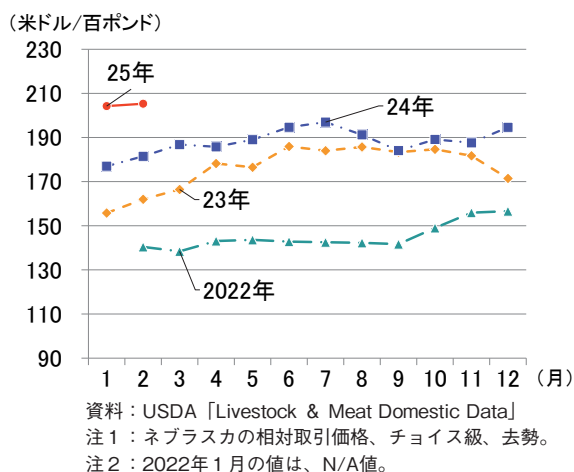


図2 肥育牛価格の推移



25年1月の牛肉輸出量は前年同月比1.0%減、輸入量は同20.7%増

USDA/ERSによると、2025年1月の牛肉輸出量は10万4414トン（前年同月比1.0%減）とわずかに減少した（表1）。

一方、同月の牛肉輸入量は、国内の牛肉生産量が減少する中で、堅調な需要により27万5778トン（同20.7%増）と大幅に増加した（表2）。輸入先別に見ると、最大のブラジルが8万9671トン（同27.2%増）、続く

豪州が5万8766トン（同34.2%増）といずれも大幅に増加した。また、パラグアイは大きく増加したが、同国は23年12月より米国向け牛肉輸出を再開しており、ブラジルと同様に複数国向けの低関税枠^{（注2）}の対象国であるため、この枠を狙って1月の輸入が集中したとみられている。

（注2）特定の関税割当枠の設定や自由貿易協定を締結していない国向けの牛肉輸出に関する低関税枠として、年間6万5005トンが設定されている。2025年は、1月17日までに全量が消化された。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 1月	25年 1月	前年同月比 (増減率)	輸出割合
韓国	23,156	23,549	1.7%	22.6%
日本	25,296	22,543	▲10.9%	21.6%
中国	14,360	18,828	31.1%	18.0%
メキシコ	14,104	11,178	▲20.7%	10.7%
カナダ	8,578	8,757	2.1%	8.4%
台湾	4,582	4,259	▲7.1%	4.1%
香港	3,229	2,885	▲10.7%	2.8%
その他	12,187	12,417	1.9%	11.9%
合計	105,493	104,414	▲1.0%	100.0%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 1月	25年 1月	前年同月比 (増減率)	輸入割合
ブラジル	70,501.5	89,671	27.2%	32.5%
豪州	43,786.2	58,766	34.2%	21.3%
カナダ	41,666.4	38,507	▲7.6%	14.0%
ニュージーランド	28,755.2	26,586	▲7.5%	9.6%
メキシコ	21,799.3	24,695	13.3%	9.0%
ウルグアイ	11,827.9	13,689	15.7%	5.0%
パラグアイ	67.9	12,902	189倍	4.7%
その他	10,041.1	10,962	9.2%	4.0%
合計	228,445	275,778	20.7%	100.0%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 小林 大祐）

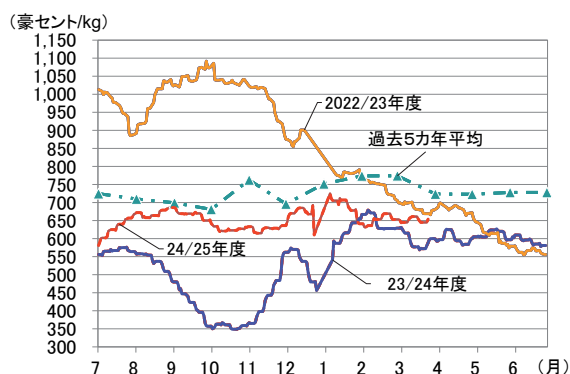
豪州

25年の牛肉生産量は記録更新の予測、米国の関税措置の影響は不透明

25年3月の若齢牛価格、わずかに下落傾向も安定して推移

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近2025年3月26日時点で1キログラム当たり654豪セント（628円：1豪ドル＝95.97円^{（注）}）と2月後半からわずかに下落しているものの安定して推移している（図1）。現地のエージェント（家畜商）やアナリストの分析によると、3月上旬に主要肉牛生産地域であるクイーンズランド（QLD）州およびニューサウスウェールズ（NSW）州北部を襲ったサイクロン「アルフレッド」の影響により、QLD州の主な食肉処理施設の稼働が一時的に停止し、牛の供給過多となったことから、瞬間的に価格下落の圧力が高まったとしている。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注1：年度は7月～翌6月。
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

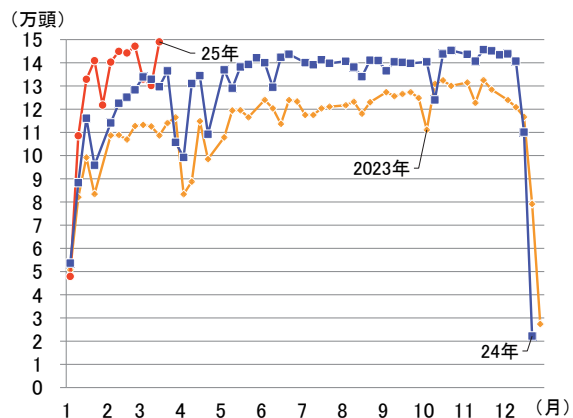
今後の見通しについては、QLD州を中心に大規模な降雨が予測されていることから、牧草肥育農家が出荷を控え、牛の供給は一時的に落ち着くとみられている。また、米国の関税措置の影響については、未だに不透明な部分はあるものの、複数の農業アナリストの予測では、米国向け牛肉の需要は底堅いことから、家畜市場価格に大きな影響を与えることは考えにくいとしている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年3月末TTS相場。

成牛と畜頭数は上昇傾向、25年の牛肉生産量は過去最高を更新と予測

週間と畜頭数は、サイクロン「アルフレッド」の影響で2025年3月初めは若干落ち込んだものの、同月第3週の成牛と畜頭数は、14万9012頭となった（図2）。これは、サイクロンの影響による食肉処理施設の一時的な稼働停止を経て、と畜頭数が増加したものとみられ、干ばつによる牛群淘汰で特にと畜頭数が

図2 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注1：成牛のみ（子牛は含まない）。
注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

多かった19年12月以来の高水準となった。

MLAの見通しによると、25年は安定した牛の供給、世界的な輸出需要の高まりなどを背景に、と畜頭数は過去最高の牛肉生産量を記録した24年を超える854万頭（前年比2.8%増）に達すると予測している。一方で、労働力の制約により国内加工業者が需要を満たせない可能性を警告しており、冷凍貯蔵や物流

の効率化に向けた投資が必要としている。

25年2月の牛肉輸出、米国向けが大幅増も関税措置の影響を懸念

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年2月の牛肉輸出量は、11万7502トン（前年同月比25.2%増）と大幅に増加した（表）。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 2月	25年 2月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～2月)	前年同期比 (増減率)
米国	21,341	35,092	64.4%	59,778	43.5%
韓国	13,869	17,778	28.2%	28,374	11.0%
東南アジア	7,476	10,071	34.7%	16,279	29.6%
インドネシア	2,797	5,012	79.2%	5,594	78.3%
中国	15,757	21,373	35.6%	36,281	21.5%
日本	23,794	20,115	▲15.5%	35,921	▲10.5%
中東	2,779	2,604	▲6.3%	4,931	▲1.2%
E U	1,084	1,322	21.9%	2,382	28.0%
その他	7,734	9,147	18.3%	14,605	13.9%
輸出量合計	93,834	117,502	25.2%	198,551	17.2%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ））。

輸出先別に見ると、米国向けは3万5092トン（同64.4%増）と大幅に増加しており、前年から豪州産牛肉への堅調な需要が続いている。4月2日に米国トランプ政権が発表した10%の追加関税の影響（注2）については、先行きの不透明さから新たな輸出取引の成約が停滞しているといった声も聞かれるが、現時点ではその影響は不確実である。MLAはホームページに専用のQ & Aページを開設しており、その中で「豪州産牛肉は米国市場で高い需要があり、追加関税に関わらず今後も主要な市場であり続けるだろう」と回答している。

また、中国向けも2万1373トン（同35.6%増）と大幅に増加しており、前年と比較して

牛肉需要に回復の兆しがみられる。昨年末に中国が豪州の食肉処理加工施設に対して行っていた輸入一時停止措置がすべて解除されたことに加え、報道によると、中国の米国に対する報復関税（注3）を背景として、中国から豪州の輸出業者への問い合わせが急増していることから、今後は米国産牛肉の代替として中国向け輸出がさらに増加する可能性があるとしている。

（注2）海外情報「豪州産牛肉に対し、米国は10%の相互関税を導入（豪州）」（令和7年4月4日発）をご参照ください。

（注3）海外情報「中国政府、農畜産物を含むすべての米国産輸入品に125%の追加関税（中国）」（令和7年4月11日発）をご参照ください。

（調査情報部 国際調査グループ）

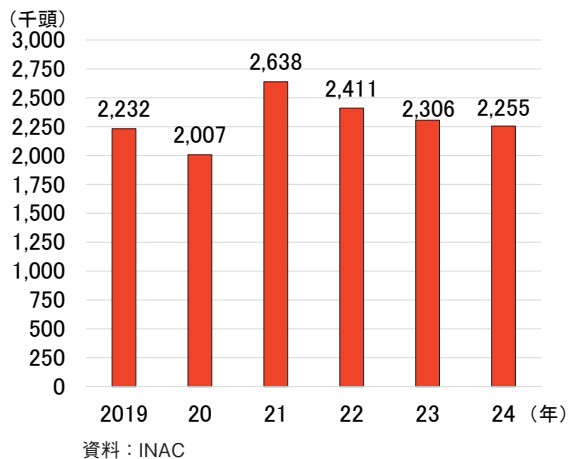
ウルグアイ

24年の牛と畜頭数、牛肉輸出量ともに3年連続の減少

24年の牛と畜頭数は前年比2.2%減

ウルグアイ食肉協会（INAC）によると、2024年の牛と畜頭数は225万5000頭（前年比2.2%減）と前年をわずかに下回り、3年連続で減少した（図1）。この要因についてINACは、24年の秋期は多雨となり、冬期は一転して乾燥して寒冷な日が続くなど天候不順となったことで、牛の増体遅れにより農家が牛の出荷を控えざるを得なかったことがあるとしている。25年については、保留されていた牛が出荷されることで、と畜頭数は前年から増加すると見込んでいる。

図1 牛と畜頭数の推移



24年の牛肉輸出量は前年比3.0%減、中国向けを中心に3年連続で減少

2024年の牛肉輸出量は34万9027トン（前年比3.0%減）と前年をやや下回り、3年連続で減少した（表）。また、平均輸出単価は、1キログラム当たり5.71米ドル（861円：1米ドル＝150.52円^{（注）}、前年比1.9%高）

と前年をわずかに上回った。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは14万9527トン（同30.8%減）と前年を大幅に下回り、輸出量全体に占める割合は前年の60.0%から42.8%へと2年連続で低下した。また、同国向けの平均輸出単価は、同4157米ドル（同626円、同8.2%安）と前年をかなりの程度下回った。これは、中国からの引き合いが弱いことや、中国市場におけるブラジル産牛肉との競合などによるものとされる。このため、高品位部位を中心に中国向け以外の輸出先の多角化が進められており、米国、オランダといった従来の輸出先に加え、イスラエルやロシア向けが増加したことにより、輸出量全体の落ち込みを一部相殺した。イスラエル向けは、コーシャミート（主に旧約聖書に基づくユダヤ教の食事規則により製造・調理された肉）の輸出体制が整っている中で、24年1月8日、これまでの骨なし牛肉に加え、骨付き牛肉の輸出が認められたことで大きく増加した。ロシア向けは、同国内の牛肉需要が増加している中で、国内の牛肉供給量の減少（小規模農家での自家消費の増加による肉牛飼養頭数の減少や、雌雄判別技術の普及）から、同様に輸出を大きく伸ばしている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年3月末TTS相場。

表 牛肉輸出の推移

国名	2023年			24年			前年比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	216,067	978,599	4,529	149,527	621,641	4,157	▲30.8%	▲36.5%	▲8.2%
米国	53,901	339,380	6,296	95,531	580,802	6,080	77.2%	71.1%	▲3.4%
オランダ	15,965	171,388	10,735	17,853	186,470	10,445	11.8%	8.8%	▲2.7%
イスラエル	7,444	55,036	7,393	15,254	103,858	6,809	104.9%	88.7%	▲7.9%
ロシア	1,923	6,371	3,313	8,526	25,031	2,936	343.4%	292.9%	▲11.4%
カナダ	13,546	60,816	4,490	8,465	40,842	4,825	▲37.5%	▲32.8%	7.5%
イタリア	5,954	46,022	7,730	8,003	65,524	8,187	34.4%	42.4%	5.9%
ブラジル	6,423	58,206	9,062	6,955	71,070	10,218	8.3%	22.1%	12.8%
日本	5,178	35,256	6,809	6,795	39,317	5,786	31.2%	11.5%	▲15.0%
その他	33,540	267,766	7,983	32,118	261,009	8,127	▲4.2%	▲2.5%	1.8%
合計	359,941	2,018,841	5,609	349,027	1,995,563	5,718	▲3.0%	▲1.2%	1.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード0201、0202の合計。

注2：製品重量ベース。

去勢牛生産者出荷価格、24年1月ごろから回復傾向で推移

INACによると、直近（2025年3月第3週）の去勢牛生産者出荷価格は、前年同月同週比20.3%高の1キログラム当たり4.50米ドル（677円）となった（図2）。と畜頭数の減少に伴い肉牛の需給がひっ迫基調で推移したことで、去勢牛生産者出荷価格は上昇傾向にある。今後は、肉牛出荷が増えることで、と畜頭数の増加が見込まれるため、同価格は落ち着くとみられている。

図2 去勢牛生産者出荷価格の推移



資料：INAC「Precios de Hacienda Bovinos」

注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 平石 康久）

豚 肉

メキシコ

25年の豚肉生産量、堅調な需要から前年比2.2%増と予測

25年の豚肉生産量は前年比2.2%増の見込み

米国農務省海外農務局（USDA/FAS）は2025年3月3日、25年のメキシコの豚肉需給見通しを発表した。これによると、同年の豚と畜頭数は2145万頭（前年比1.4%増）、

豚肉生産量は163万トン（同2.2%増）と、いずれもわずかな増加が見込まれている（表1）。また、豚肉消費量は、人口や可処分所得の増加などに伴う堅調な需要から、283万トン（同1.3%増）とわずかな増加が見込まれている。

表1 メキシコの豚肉需給の推移

（単位：千頭、千トン）

区分	2023年	24年	25年	前年比 (増減率)
と畜頭数	20,750	21,150	21,450	1.4%
供給量	2,911	3,030	3,070	1.3%
生産量	1,557	1,590	1,625	2.2%
輸入量	1,354	1,440	1,445	0.3%
輸出量	258	240	245	2.1%
消費量	2,653	2,790	2,825	1.3%

資料：USDA/FAS「Gain Report」

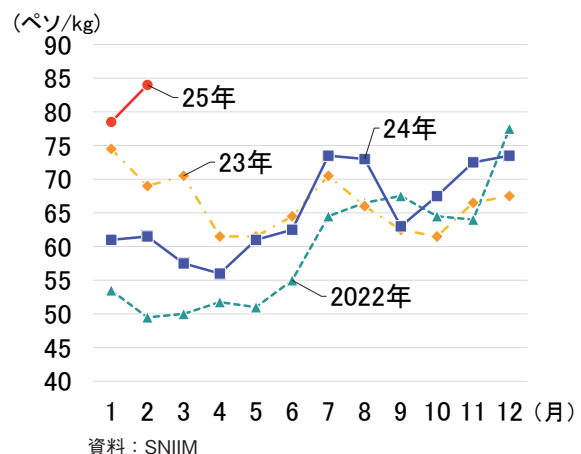
注1：2025年は予測値。

注2：枝肉重量ベース。

豚枝肉価格は上昇して推移、25年2月は前年同月比36.6%高

メキシコ国家情報市場統合システム（SNIIM）によると、2025年2月の豚枝肉価格は、1キログラム当たり84.0ペソ（700円：1ペソ＝8.33円^{（注）}、前年同月比36.6%高）と大幅に上昇した（図）。この要因について現地報道によると、24年下半年（6～12月）以降のペソ安に伴う輸入飼料価格の上昇に伴う価格転嫁や、価格が上昇している

図 豚枝肉価格の推移



輸入豚肉に比べて安価な国産の需要が増加したことなどが挙げられている。また、同月の生体豚価格も、同55.9ペソ（466円、同65.9%高）と大幅に上昇した。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年3月末TTS相場。

24年の豚肉輸出量は前年比10.4%減、輸入量は同3.7%増

2024年の豚肉輸出量は、国内の需要増や上半期（1～6月）のペソ高による輸出競争力の低下などにより、17万400トン（前年比10.4%減）とかなりの程度減少した（表2）。

輸出先別に見ると、輸出先第1位の日本向けは12万4400トン（同4.8%減）、第2位の米国向けは2万7600トン（同5.3%減）、第3位の韓国向けは1万1100トン（同42.3%減）となった。日本向けや韓国向けについては、輸送コストの上昇も輸出量減少の一因とみられている。

一方、同年の豚肉輸入量は138万8800トン（同3.7%増）とやや増加した（表3）。メキシコ政府によるインフレ率上昇抑制策（PACIC）が継続していることにより、ブラジル産豚肉は一時的に関税が無税となっていることから、同国からの豚肉輸入量は4万2300トン（同53.3%増）と大幅に増加した。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

国名	2023年	24年	前年比 (増減率)	輸出割合
日本	130.7	124.4	▲4.8%	73.0%
米国	29.2	27.6	▲5.3%	16.2%
韓国	19.3	11.1	▲42.3%	6.5%
その他	11.1	7.2	▲35.0%	4.2%
合計	190.2	170.4	▲10.4%	100.0%

資料：「Global Trade Atlas」、BOL（船荷証券）に基づく集計値。
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

表3 輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：千トン）

国名	2023年	24年	前年比 (増減率)	輸入割合
米国	1,140.7	1,159.8	1.7%	83.5%
カナダ	166.3	182.5	9.7%	13.1%
ブラジル	27.6	42.3	53.3%	3.0%
その他	5.0	4.1	▲17.9%	0.3%
合計	1,339.6	1,388.8	3.7%	100.0%

資料：「Global Trade Atlas」、BOL（船荷証券）に基づく集計値。
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

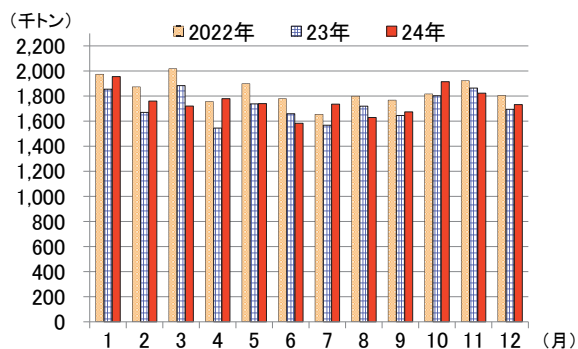
（調査情報部 小林 大祐）

24年の豚肉生産量は3年ぶりに前年比増、豚枝肉卸売価格は下落

24年のEU豚肉生産量、主要生産国の多くで増加

欧州委員会によると、2024年12月の豚肉生産量（EU27カ国）は、173万1870トン^{（注1）}（前年同月比2.2%増）とわずかに増加した。24年累計（1～12月）の豚肉生産量を見ると、2104万4600トン（前年比2.0%増）とわずかに増加した（図1）。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

24年の豚肉生産量を主要生産国別に見ると、ポーランドはアフリカ豚熱（ASF）発生の影響から改善が見られ母豚飼養頭数が増加したことで、前年比7.7%増となった（表1）。

デンマークは、と畜場の閉鎖などにより22年、23年と減産傾向が続いていたが、24年は1頭当たりの枝肉重量の増加により同2.7%増となった。

しかしながら、25年のEU豚肉生産量については、米国農務省海外農務局（USDA/FAS）の分析によると、（1）子豚価格の下落による母豚飼養頭数の減少（2）輸出需要の低迷による豚肉価格の軟調—などからと畜頭数の減少が見込まれるため、前年比0.9%の減少に転じるものと予測されている。

表1 主要生産国別豚肉生産量

（単位：千トン）

国名	2023年 12月	24年 12月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～12月)	前年比 (増減率)
スペイン	393	405	3.1%	4,918	1.0%
ドイツ	339	338	▲0.4%	4,275	1.7%
フランス	165	175	6.1%	2,094	1.5%
ポーランド	159	165	3.6%	1,901	7.7%
オランダ	113	110	▲2.3%	1,387	▲5.2%
デンマーク	99	93	▲5.3%	1,323	2.7%
イタリア	100	106	6.0%	1,245	3.2%
その他	326	339	4.0%	3,902	3.2%
合計	1,694	1,732	2.2%	21,045	2.0%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

25年2月の豚枝肉卸売価格、緩和懸念から続落も月末以降は反転

欧州委員会によると、2025年2月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、1キログラム当たり1.80ユーロ（295円：1ユーロ＝163.58円^{（注1）}、前年同月比13.1%安）となった（図2）。EUの豚肉生産量の増加や、英国などがドイツでの口蹄疫発生を受けて同国産豚肉などの輸入を停止したことによるEU域内の豚肉需給緩和の懸念から、1月からの下落基調

が2月中旬まで続いたことが影響した^{（注2）}。ただし、2月中旬以降、スペイン産豚肉などに対する輸出需要の増加から上昇に転じており、直近3月17日の週は同1.85ユーロ（302円）となった。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年3月末TTS相場。
（注2）海外情報「ドイツでの口蹄疫発生から1カ月が経過、豚肉価格が軟化（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004042.html）をご参照ください。

24年の豚肉輸出量、中国向けが顕著に減少

欧州委員会によると、2024年のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、201万1358トン（前年比4.1%減）とやや減少した（表2）。中でも、主要豚肉輸出国であるスペインやデンマークが、主要輸出先の中国での豚肉需給緩和から、同国向け輸出を大きく減少（スペインは同14.5%減、デンマークは同20.8%減）させたことなどが影響した。

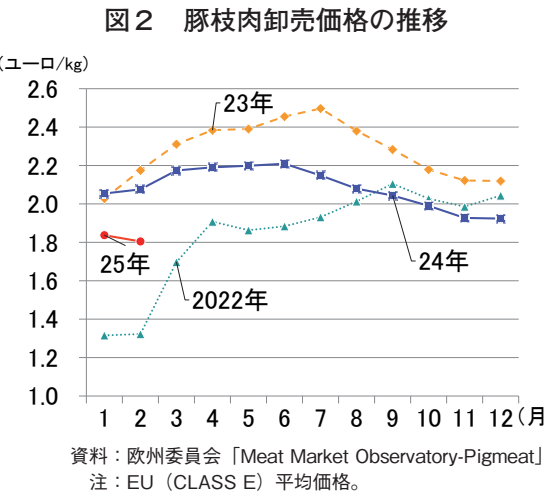


表2 域外向け豚肉輸出量（2024年）

（単位：トン）

EU27カ国			スペイン			デンマーク		
		前年比 (増減率)			前年比 (増減率)			前年比 (増減率)
中国	486,565	▲15.4%	中国	252,429	▲14.5%	英国	68,785	▲3.6%
英国	343,353	▲0.4%	日本	183,907	10.4%	日本	59,876	▲9.7%
日本	296,570	2.7%	韓国	74,391	▲22.5%	中国	56,877	▲20.8%
韓国	194,478	1.0%	フィリピン	45,885	5.0%	豪州	39,463	18.1%
フィリピン	127,452	14.5%	英国	43,309	▲1.6%	米国	22,373	5.5%
豪州	70,483	5.8%	セルビア	24,261	1.1%	フィリピン	19,205	61.2%
その他	492,457	▲5.2%	その他	114,272	▲1.7%	その他	48,762	▲11.8%
合計	2,011,358	▲4.1%	合計	738,454	▲6.0%	合計	315,341	▲4.8%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：製品重量ベース。
注2：HSコードは0203。

（調査情報部 藤岡 洋太）

鶏 肉

タ イ

鶏肉生産量は3年連続で増加、鶏肉製品の日本向け輸出が好調

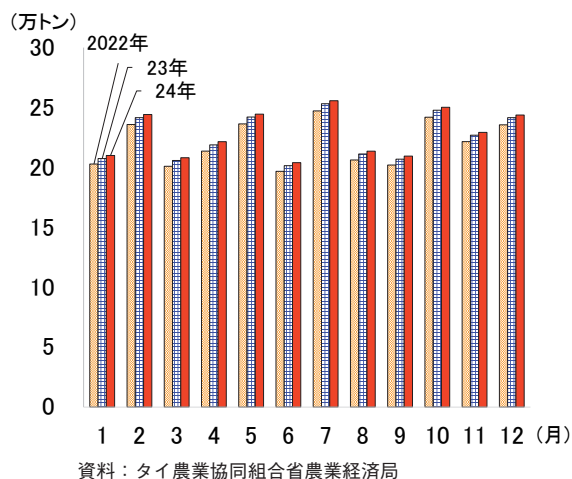
24年の鶏肉生産量、前年比1.1%増

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2024年の鶏肉生産量は273万3942トン（前年比1.1%増）とわずかに増加した（図1）。同国が鶏肉製品の輸出世界一を目標に掲げる中（注1）、鶏肉生産量は3年連続で前年比増となっている。

一方、25年の鶏肉生産状況について現地専門家は、米国や欧州などで高病原性鳥インフルエンザが継続的に発生し、原種鶏の輸入が計画通りに進まないため、一部の養鶏企業からは種鶏不足の声が出ているとし、今後の鶏肉生産動向に注視が必要としている。

（注1）『畜産の情報』2024年12月号「タイの鶏肉需給動向 ～世界的に需要が高まる鶏肉製品で輸出世界一を目指す～」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003513.html) をご参照ください。

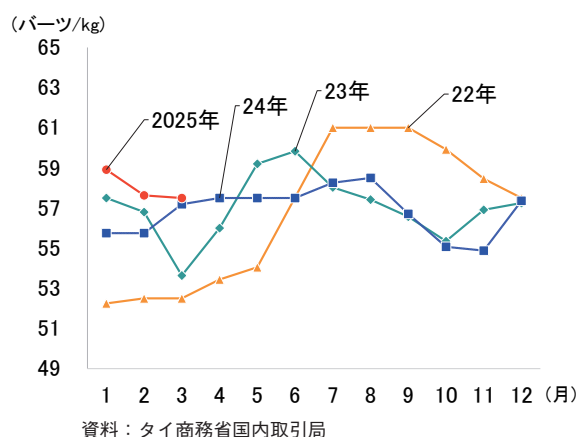
図1 鶏肉生産量の推移



25年3月の鶏肉卸売価格、前年同月比0.5%高

2025年3月の鶏肉卸売価格は、前年同月比0.5%高の1キログラム当たり57.50バーツ（258円：1バーツ＝4.48円（注2））とわずかに上回った（図2）。

図2 鶏肉卸売価格の推移



今後の鶏肉価格について現地専門家は、4月中旬のタイ旧正月（ソングラーン）の長期休暇により、食鳥処理場および加工場の稼働が停止し、鶏肉生産量が一時的に減少する一方、タイ国内の鶏肉需要が増加することなどから、上昇傾向での推移を予測している。

（注2）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年3月末TTS相場。

24年の冷凍鶏肉輸出量、前年比2.3%減

2024年の冷凍鶏肉の輸出量は、46万723トン（前年比2.3%減）とわずかに減少した（表1）。主要輸出先別に見ると、高水準となった前年の反動により中国向けはわずかに、

韓国向けは大幅に、いずれも減少したが、マレーシア向けはわずかに増加し、前年の輸出量がわずかであったアラブ首長国連邦向けは大幅に増加した。また、日本向けは外食産業を中心に鶏肉需要が堅調に推移したことから、17万8589トン（同7.7%増）とかなりの程度増加し、輸出量全体の4割弱を占めた。

表1 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

（単位：万トン）

国名	2020年	21年	22年	23年	24年	前年比 （増減率）
日本	15.2	14.3	13.6	16.6	17.9	7.7%
中国	11.5	10.4	8.5	11.5	11.3	▲2.0%
マレーシア	4.1	4.7	7.2	9.1	9.1	1.0%
韓国	0.8	1.3	1.2	3.2	2.2	▲30.8%
アラブ首長国連邦	0.002	0.02	0.01	0.02	1.0	5387.2%
その他	4.1	4.2	4.4	6.8	4.6	▲32.4%
合計	35.7	34.9	34.9	47.2	46.1	▲2.3%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

24年の鶏肉調製品の輸出量、前年比13.7%増

2024年の鶏肉調製品輸出量は、67万7244トン（前年比13.7%増）とかなり大きく増加した（表2）。日本向けは、円安で

推移する為替相場の影響はあったものの、年間を通して外食や中食・総菜向けなどの引き合いが強かったため、30万831トン（同5.2%増）とやや増加し、輸出量全体の4割強を占めた。

表2 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

（単位：万トン）

国名	2020年	21年	22年	23年	24年	前年比 （増減率）
日本	29.2	28.8	31.1	28.6	30.1	5.2%
英国	14.2	13.6	17.3	16.1	19.9	24.0%
オランダ	2.8	3.9	5.6	4.1	4.5	10.7%
韓国	2.4	2.1	3.1	2.9	2.9	2.0%
その他	6.1	6.7	8.1	8.0	10.3	29.2%
合計	54.6	55.0	65.2	59.6	67.7	13.7%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは160232。

（調査情報部 平山 宗幸）

牛乳・乳製品

米 国

25年1月の乳製品輸出、バターやチーズが前年同月比で大幅増

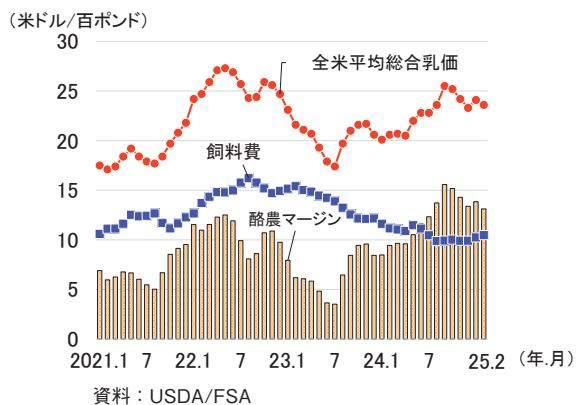
25年2月の全米総合平均乳価、前年同月比14.6%高

米国農務省農場サービス局（USDA/FSA）によると、2025年2月の全米平均総合乳価は、生乳100ポンド当たり23.6米ドル（1キログラム当たり78円：1米ドル＝150.52円^{（注1）}、前年同月比14.6%高）とかなり大きく上昇した（図1）。また、同月の酪農マージン^{（注2）}は、乳価の上昇と飼料費の下落により、同13.12米ドル（同44円、同39.0%増）と大幅に増加した。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2025年3月末TTS相場。

（注2）酪農家のセーフティーネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合、補填が発動される。

図1 酪農マージンの推移



25年2月の生乳生産量は前年同月比2.6%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年2月の乳用経産

牛飼養頭数は940万5000頭（前年同月比0.7%増）とわずかに増加した（図2）。同飼養頭数は収益性の改善から、24年後半以降は増加傾向で推移している。

一方、同月の生乳生産量は、飼養頭数が増加する中で、前年がうるう年であった影響などにより1頭当たり乳量（同3.1%減）とやや、生乳生産量は804万トン（同2.6%減）とわずかに、それぞれ減少した（図3）。なお、主要生乳生産州であるカリフォルニア州では、

図2 乳用経産牛飼養頭数の推移

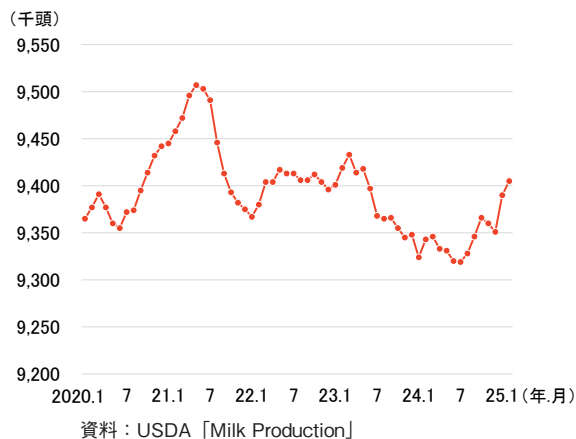
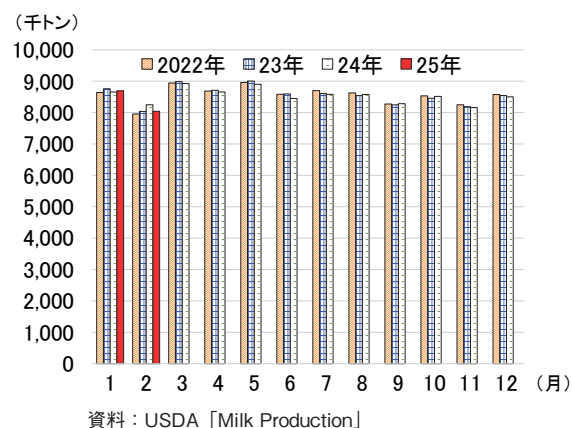


図3 生乳生産量の推移



乳牛の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）感染の影響により、同7.1%減と目立った減少が続いている。

25年 1 月の乳製品輸出量、脱脂粉乳が大幅減もチーズとバターは好調

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年 1 月の乳製品輸出量は、乳脂肪分ベースでは前年同月比37.2%増と大幅に増加した一方、無脂肪分ベースでは同4.9%減とやや減少した。品目別に見ると、脱脂粉乳（NDM）が 4 万6800トン（同20.2%減）と大幅に減少した（表）。この要因

についてアメリカ乳製品輸出協会（USDEC）は、生産量が減少する中で、輸出競合相手のEUやニュージーランドと比較して高値となったことを挙げている。

一方、チーズは、日本や韓国、東南アジア地域の需要増から、4 万6700トン（同21.9%増）、バターも3200トン（同40.7%増）と、いずれも大幅に増加した。また、主に製パンや製菓などに用いられるバターオイル（AMF）も、トランプ政権による追加関税措置を見据えた在庫確保の動きから、カナダやメキシコ向けが大幅に増加し、同6.5倍と大幅に増加した。

表 主要乳製品輸出量の推移

（単位：千トン）

品目	2024年 1 月	25年 1 月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	58.6	46.8	▲20.2%
チーズ	38.3	46.7	21.9%
乳糖	35.0	30.3	▲13.4%
ホエイ	13.5	14.9	10.0%
WPC	11.6	9.6	▲17.8%
バター	2.3	3.2	40.7%
バターオイル	0.6	3.9	524.4%

資料：USDA/ERS「Dairy Data」、USDEC掲載資料
注：製品重量ベース。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

E U

2024年の乳用経産牛飼養頭数は3.4%減、生乳出荷量は0.6%増

25年 1 月の生乳出荷量は前年同月比0.3%減、上位 3 カ国で減少

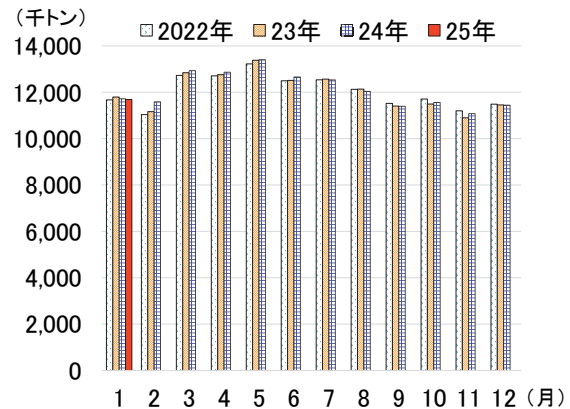
欧州委員会によると、2025年 1 月の生乳出荷量（EU27カ国）は1168万8000トン（前年同月比0.3%減）と前年同月をわずかに

下回った（表 1、図 1）。主要生産国別に見ると、ポーランド（同3.0%増）やイタリア（同1.0%増）が前年同月を上回る中で、ドイツ（同2.2%減）やフランス（同0.9%減）、オランダ（同1.8%減）などは、いずれも前年同月を下回った。現地関係者によると、1 月

下旬時点でスペインやイタリアなど地中海沿岸や東欧を中心に数週間の干ばつが継続しており、今後の放牧環境の悪化による生乳生産量の減少が懸念されている。

一方、同月の生乳の乳脂肪分割合（EU27カ国の平均）は同1.0%増となり、ドイツ（同0.2%減）を除く主要生産国で前年同月を上回った。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

国名	2024年 1月	25年 1月	前年同月比 (増減率)
ドイツ	2,719	2,659	▲2.2%
フランス	2,027	2,009	▲0.9%
オランダ	1,176	1,156	▲1.8%
ポーランド	1,113	1,147	3.0%
イタリア	1,131	1,142	1.0%
スペイン	630	624	▲0.9%
デンマーク	472	475	0.6%
ベルギー	389	369	▲5.2%
その他	1,770	1,832	3.5%
合計	11,718	11,688	▲0.3%

資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は速報値。

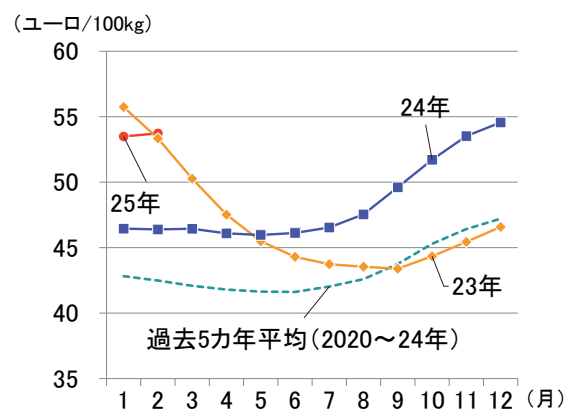
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

25年2月の生乳取引価格は前年同月比15.8%高、10カ月連続の上昇

欧州委員会によると、2025年2月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり53.73ユーロ（1キログラム当たり87.89円：1ユーロ＝163.58円（注1）、前年同月比15.8%高）と10カ月連続で前年同月を上回った（図2）。24年12月の同54.56ユーロから弱含みとなっているものの、高水準にあるバターなどの乳製品価格に

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

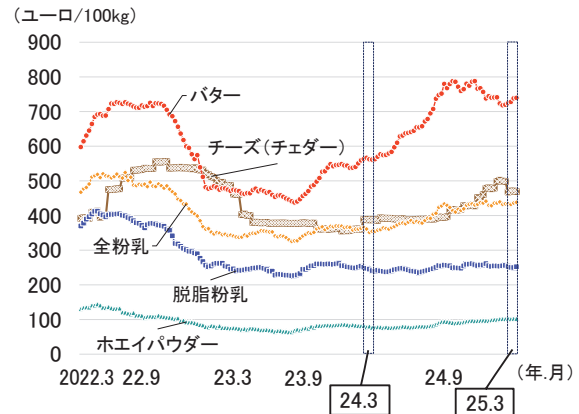
けん引される形で好調を維持している。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年3月末TTS相場。

25年3月のバター価格は前年同期比31.7%高、高値圏を維持

欧州委員会によると、2025年3月23日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり740ユーロ（1キログラム当たり1210円、前年同期比31.7%高）と前年同期を大幅に上回り、高値が継続している。チーズは同469ユーロ（同767円、同20.9%高）と同じく前年同期を大幅に上回ったが、前月比では5.8%安とやや下落した。また、全粉乳は同438ユーロ（同716円、同23.6%高）、脱脂粉乳は同252ユーロ（同412円、同4.6%高）といずれも前年同期を上回った（図3）。

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

24年末の乳用経産牛飼養頭数は前年比3.4%減、9年連続で減少

欧州委員会によると、2024年12月時点の乳用経産牛飼養頭数（EU27カ国）は、1922万6000頭（前年比3.4%減）と9年連続で減少した（表2）。同飼養頭数はすべての主要生産国で前年を下回り、多くの国では23年に比べて減少率が拡大した。これはEU域内外における24年の牛肉需要と堅調な牛肉価格を背景に、と畜頭数が増加したこと

表2 主要生産国別乳用経産牛飼養頭数の推移

(単位：千頭)

国名	2022年	23年	24年	前年比 (増減率)
ドイツ	3,810	3,713	3,589	▲3.3%
フランス	3,231	3,165	3,074	▲2.9%
ポーランド	2,037	2,243	1,960	▲12.6%
イタリア	1,865	1,808	1,764	▲2.4%
オランダ	1,570	1,552	1,521	▲2.0%
アイルランド	1,510	1,511	1,481	▲2.0%
ルーマニア	1,076	1,057	1,055	▲0.2%
スペイン	810	786	774	▲1.5%
デンマーク	556	547	543	▲0.7%
その他	3,609	3,532	3,465	▲1.9%
合計	20,074	19,913	19,226	▲3.4%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：2024年は速報値。

注2：各年12月時点。

注3：ポーランドの24年の飼養頭数は上方修正される可能性あり。

による。EU全体としては、1頭当たりの乳量^(注2)が7567キログラム（同4.3%増）にやや増加し、24年の生乳出荷量（同0.6%増）

は前年をわずかに上回った。

（注2）生乳出荷量を飼養頭数で除して求めたもの。

（調査情報部 渡辺 淳一）

N Z

堅調な需要から、チーズなどの輸出が好調

25年2月の生乳生産量、8カ月ぶりに前年同月を下回る

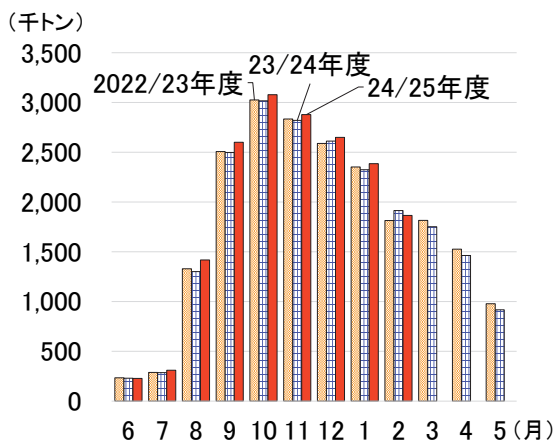
ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2025年2月の生乳生産量は186万5千トン（前年同月比2.6%減）と前年同月をわずかに下回った（図1）。この要因としてニュージーランド証券取引所（NZX）は、

前年がうるう年であったことを挙げており、生乳生産は好調を維持しているとみられる（うるう年調整後では同0.9%増としている）。

今後の生乳生産量についてNZXは、干ばつの影響による牧草生育状況の悪化に伴い、前年を下回ると予想している。このような中でニュージーランド（NZ）政府は25年3月、複数地域の干ばつ状況および農家への影響を認識し、地元の農村支援信託を通じて酪農家や野菜生産者などに対し合計10万NZドル（872万6000円：1NZドル＝87.26円^(注1)）の支援金を提供すると発表した。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年3月末TTS相場。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

25年2月の乳製品輸出量、主要3品目で増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2025年2月の乳製品輸出量は、全粉乳を除く主要3品目で前年同月を上回った（表、図2）。脱脂粉乳は中国向けが、バター

表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2024年 2月	25年 2月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	49,268	50,732	3.0%
全粉乳	141,576	128,167	▲9.5%
バターおよびバターオイル	36,032	41,343	14.7%
チーズ	28,595	39,544	38.3%

資料：Stats NZ

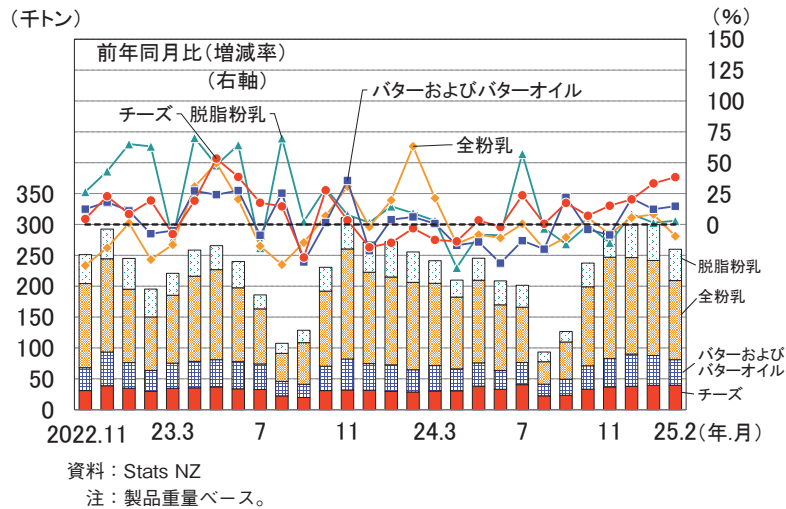
注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

およびバターオイルは中国および豪州向け 増加した。
が、チーズは中国および日本向けがいずれも

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移



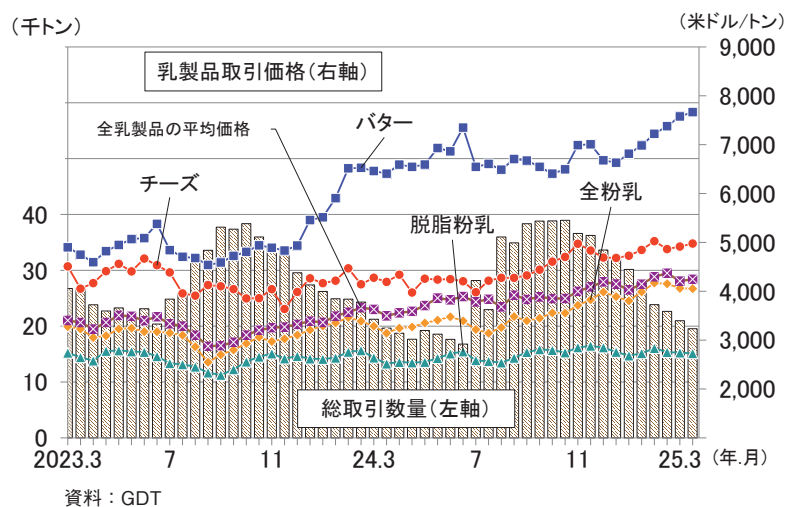
25年3月18日のGDT平均価格、主要2品目は前回を上回る

2025年3月18日開催のGDT^(注2) 平均取引価格は、バターおよびチーズが前回開催時(25年3月4日)を上回った(図3)。米国の輸入関税を巡り、乳製品国際市場にも不透

明感がある中、北アジアからの購入量が増加していることから、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり4245米ドル(63万8957円、1米ドル＝150.52円^(注1)、前回比0.9%高)となった。

(注2) グローバルデリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 田中 美宇)

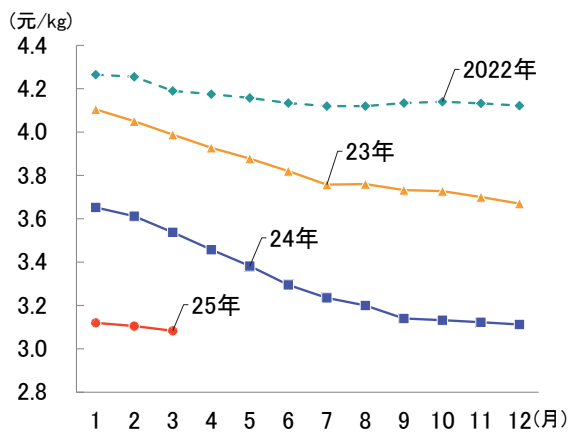
中国

25年も生乳価格は低水準、乳製品輸入量は増加傾向

25年3月の生乳価格、前年同月比12.8%安

中国農業農村部によると、2025年3月の生乳価格は1キログラム当たり3.08元（64.34円：1元＝20.89円^{（注1）}、前年同月比12.8%安）と前年同月をかなり大きく下回った（図1）。直近3カ月は各月当たり0.01元（0.2円）の下落で推移するなど生乳価格の下落幅

図1 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の8割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

は縮小しているが、下げ止まりは見られず、酪農部門にとって厳しい状況が続いている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年3月末TTS相場。

生乳供給量について中国農業農村部は、25年3月に公表した「農産物需給動向分析月報（2025年2月）」の中で、乳牛飼養頭数は前年比4.8%減少しているが、1頭当たり生乳生産量は増加しているため、十分としている。一方で、人口の減少や経済低迷などを受け、旧正月（春節、25年は1月29日）後の乳製品需要が弱いことから、生乳価格は、引き続き低水準になると予測している。

25年の乳製品輸入量は増加傾向

2025年1～2月期の乳製品主要8品目の輸入量は、8品目中4品目で大幅に、1品目でかなり大きく、いずれも前年同期を上回り、輸入額では全品目で前年同期を上回った（表）。

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

（単位：万トン）

項目	2021年	22年	23年	24年	25年 (1～2月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】 前年同期比 (増減率)
全粉乳	84.9	70.1	43.1	41.0	10.4	▲5.7%	15.4%
脱脂粉乳	42.6	33.5	34.7	22.9	5.1	▲7.2%	6.1%
飲用乳	99.6	72.2	54.8	41.7	9.5	46.8%	47.5%
ヨーグルト	2.5	2.2	1.8	1.6	0.2	19.9%	6.2%
チーズ	17.6	14.5	17.8	17.3	3.0	14.5%	19.4%
バター	9.7	10.1	9.3	10.5	2.5	46.5%	87.1%
育児用調製粉乳	27.3	28.0	23.8	21.6	2.9	▲3.4%	3.3%
ホエイ	71.8	59.9	65.6	64.5	11.4	32.6%	32.0%

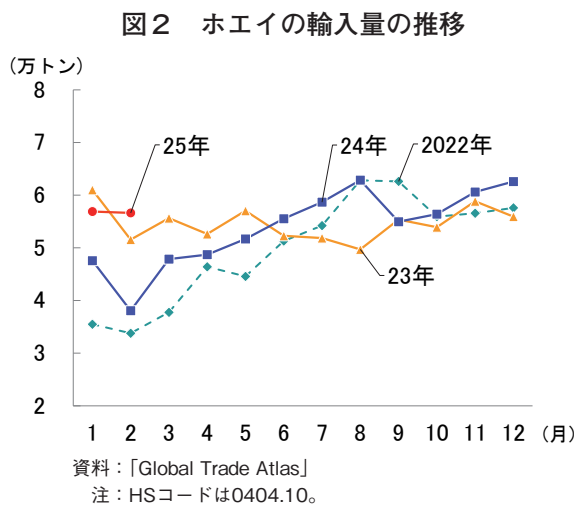
資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10（2021年以前）と0403.20（22年以降）、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、22年1月1日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、21年以前と22年以降のデータに連続性はない。

このうち、ホエイについては、主に養豚向け飼料原料利用が多く、近年、乳製品輸入量（製品重量）全体に占める割合が3割程度にまで増加しており、中国国内の繁殖雌豚頭数が増加傾向にあることなどを受け（注2）、11万3525万トン（前年同期比32.6%増）と大幅に増加した（図2）。また、これまでニュージーランドやドイツからの輸入が大部分を

占めていた飲用乳は、トルコやフランスなどからの輸入量が大きく増加したことなどを受けて大幅に増加した。製パンや製菓からの需要が堅調なバターの輸入量も大幅に増加した。

（注2）『畜産の情報』2025年4月号「24年の豚肉生産量は前年に続き高水準、豚肉輸入量は大幅減」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003669.html）をご参照ください。



25年の中国の乳製品需給についてオランダの農協系金融機関ラボバンクは、24年12月および25年3月に公表した四半期報告の中で、中国の乳製品需要は引き続き低迷するものの、25年の生乳生産量が前年比1.5%減少する見通しなどを受け、乳製品輸入量は同2.0%増加すると予測している。

（調査情報部 平山 宗幸）

飼料穀物

世界

消費量の微増から期末在庫はかなりの程度減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年3月11日、24/25年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億1417万トン（前年度比1.1%減）と前月から170万トン上方修正された。生産量上位5カ国・地域では据え置かれたものの、インドが作付面積と単収の増加により過去最高の更新が見込まれていることから、前月から200万トン上方修正されたことなどが反映された。

輸入量は、最大の輸入国である中国が800万トン（同65.8%減）と前月から200万ト

ン下方修正されたことが影響し、世界全体で1億8030万トン（同8.8%減）と前月から86万トン下方修正された。

消費量は、米国や中国はいずれも前月から据え置かれたが、ブラジルが50万トン上方修正されたことなどから、世界全体で12億3919万トン（同1.7%増）と前月から123万トン上方修正された。

輸出量は、最大の輸出国である米国は据え置かれたが、ブラジルなどの下方修正が影響し、世界全体で1億8636万トン（同3.7%減）と前月から287万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は、2億8894万トン（同8.0%減）と前月から137万トン下方修正された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2025年3月11日米国農務省公表)

(単位: 百万トン)

国名	2022/23 年度	23/24 年度 (推計値)	24/25年度			
			(2 月 予 測)	(3 月 予 測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.98	34.55	44.79	44.79	29.6%
	生産量	346.74	389.67	377.63	377.63	▲3.1%
	輸入量	0.98	0.72	0.64	0.64	▲11.1%
	消費量	305.93	321.92	321.71	321.71	▲0.1%
	輸出量	42.22	58.23	62.23	62.23	6.9%
	期末在庫	34.55	44.79	39.12	39.12	▲12.7%
ブラジル	期首在庫	3.97	10.04	8.84	7.46	▲25.7%
	生産量	137.00	119.00	126.00	126.00	5.9%
	輸入量	1.33	1.72	1.50	1.50	▲12.8%
	消費量	78.00	85.00	87.50	88.00	3.5%
	輸出量	54.26	38.30	46.00	44.00	14.9%
	期末在庫	10.04	7.46	2.84	2.96	▲60.3%
アルゼンチン	期首在庫	4.75	2.32	3.09	2.59	11.6%
	生産量	37.00	51.00	50.00	50.00	▲2.0%
	輸入量	0.02	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
	消費量	14.20	14.25	14.30	14.30	0.4%
	輸出量	25.24	36.50	36.00	36.00	▲1.4%
	期末在庫	2.32	2.59	2.79	2.29	▲11.6%
ウクライナ	期首在庫	7.80	3.00	1.07	1.07	▲64.3%
	生産量	27.00	32.50	26.50	26.80	▲17.5%
	輸入量	0.02	0.01	0.02	0.02	100.0%
	消費量	4.70	4.95	4.95	5.15	4.0%
	輸出量	27.12	29.49	22.00	22.00	▲25.4%
	期末在庫	3.00	1.07	0.64	0.74	▲30.8%
E U	期首在庫	11.36	8.02	7.24	7.24	▲9.7%
	生産量	52.38	61.87	58.00	58.00	▲6.3%
	輸入量	23.19	19.83	19.50	19.50	▲1.7%
	消費量	74.70	78.10	75.70	75.70	▲3.1%
	輸出量	4.20	4.39	2.50	2.50	▲43.1%
	期末在庫	8.02	7.24	6.54	6.54	▲9.7%
中国	期首在庫	209.14	206.04	211.29	211.29	2.5%
	生産量	277.20	288.84	294.92	294.92	2.1%
	輸入量	18.71	23.41	10.00	8.00	▲65.8%
	消費量	299.00	307.00	313.00	313.00	2.0%
	輸出量	0.01	0.00	0.02	0.02	—
	期末在庫	206.04	211.29	203.18	201.18	▲4.8%
世界計	期首在庫	313.91	304.83	315.81	313.95	3.0%
	生産量	1163.33	1228.09	1212.47	1214.17	▲1.1%
	輸入量	173.40	197.75	181.16	180.30	▲8.8%
	消費量	1172.41	1218.97	1237.96	1239.19	1.7%
	輸出量	180.35	193.56	189.23	186.36	▲3.7%
	期末在庫	304.83	313.95	290.31	288.94	▲8.0%

資料: USDA/WAOB 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注: 各国の穀物年度 世界、米国: 9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国: 10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル: 3月～翌2月。

(調査情報部 岡田 真希奈)

生産量は据え置きも、消費量の上方修正から 大豆期末在庫は下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年3月11日、24/25年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2076万トン（前年度比6.5%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の生産国であるブラジル、これに次ぐ米国などはいずれも前月から据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7920万トン（同0.5%増）と前月から4万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億900万トン（同2.7%減）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億5284万トン（同6.5%増）と前月から295万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は搾油需要などから1億500万トン（同6.1%増）と前月から200万トン、アルゼンチンも同様に4200万トン（同14.8%増）と前月から100万トン、それぞれ上方修正されたことが反映されている。

輸出量は、世界全体で1億8195万トン（同2.5%増）と前月から3万トン下方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは1億550万トン（同1.3%増）、これに次ぐ

米国は4967万トン（同7.7%増）といずれも前月から据え置かれた。

この結果、期末在庫は生産量が据え置かれた中で消費量が上方修正されたことで、1億2141万トン（同7.9%増）と前月から293万トン下方修正された。

今回の予測では、米国の生産量は据え置かれ、期末在庫は市場関係者による事前予想の範囲内とされたが、24/25年度の米国内のバイオ燃料向け大豆油需要の緩和などを踏まえてUSDAは、米国の生産者販売価格を前月の1ブッシェル当たり10.10米ドル（1520円、1キログラム当たり56円^{（注1）}：1米ドル＝150.52円^{（注2）}）から同9.95米ドル（1498円、同55円、同19.8%安）に引き下げている。

また、今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した同年度の中国の大豆輸入量9460万トンとは引き続き乖離^{かいり}がある。中国国内では引き続き大豆需給の緩和も報じられており、世界の期末在庫が比較的高い水準にある中で、同国の輸入動向が注目されている。

（注1）1ブッシェルを約27.215キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年3月末TTS相場。

表 主要国の大豆需給見通し（2025年3月11日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			
			(2 月 予測)	(3 月 予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	7.47	7.19	9.32	9.32	29.6%
	生産量	116.22	113.27	118.84	118.84	4.9%
	輸入量	0.67	0.57	0.54	0.54	▲5.3%
	消費量	60.20	62.20	65.59	65.59	5.5%
	輸出量	53.87	46.13	49.67	49.67	7.7%
	期末在庫	7.19	9.32	10.34	10.34	10.9%
	ブラジル	期首在庫	27.38	36.82	27.97	27.97
生産量		162.00	153.00	169.00	169.00	10.5%
輸入量		0.15	0.87	0.15	0.15	▲82.8%
消費量		53.41	54.70	56.00	56.00	2.4%
輸出量		95.50	104.17	105.50	105.50	1.3%
期末在庫		36.82	27.97	31.52	31.52	12.7%
アルゼンチン		期首在庫	23.69	17.00	24.05	24.05
	生産量	25.00	48.21	49.00	49.00	1.6%
	輸入量	9.06	7.79	6.00	6.00	▲23.0%
	消費量	30.32	36.58	41.00	42.00	14.8%
	輸出量	4.19	5.11	4.50	4.50	▲11.9%
	期末在庫	17.00	24.05	25.95	24.95	3.7%
	中国	期首在庫	25.15	32.34	43.31	43.31
生産量		20.28	20.84	20.65	20.65	▲0.9%
輸入量		104.50	112.00	109.00	109.00	▲2.7%
消費量		96.00	99.00	103.00	105.00	6.1%
輸出量		0.09	0.07	0.10	0.10	42.9%
期末在庫		32.34	43.31	45.96	43.96	1.5%
世界計		期首在庫	92.90	101.24	112.49	112.55
	生産量	378.16	394.97	420.76	420.76	6.5%
	輸入量	168.60	178.30	179.24	179.20	0.5%
	消費量	315.62	331.29	349.89	352.84	6.5%
	輸出量	171.75	177.51	181.98	181.95	2.5%
	期末在庫	101.24	112.55	124.34	121.41	7.9%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国の生産量はやや減少、生産者価格は前年度に続き下落

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2025年3月11日、24/25年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した。この中で、すべての数値は前月から据え置かれた（表）。

生産量は、148億6700万ブッシェル（3億7764万トン^{（注1）}、前年度比3.1%減）。

米国内消費量は、126億6500万ブッシェル（3億2170万トン、同0.1%減）。

輸出量は、24億5000万ブッシェル（6223万トン、同6.9%増）。

この結果、期末在庫は15億4000万ブッシェル（3912万トン、同12.6%減）と、前年度をかなり大きく下回ると見込まれて

いる。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、10.2%（同1.6ポイント減）と、前年度を下回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.35米ドル（655円。1キログラム当たり25.8円：1米ドル＝150.52円^{（注2）}、同4.4%安）と前年度からやや下落が見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年3月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2025年3月11日米国農務省公表）

区分	－単位－	2022/23 年度	23/24 年度 (推計値)	24/25年度			
				(2月予測)	(3月予測)	参考（換算値）	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	88.2	94.6	90.6	90.6	36.67 (百万ヘクタール)	▲4.2%
収穫面積	(百万エーカー)	78.7	86.5	82.9	82.9	33.55 (百万ヘクタール)	▲4.2%
単収	(ブッシェル/エーカー)	173.4	177.3	179.3	179.3	11.25 (トン/ヘクタール)	1.1%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	1,763	1,763	44.78 (百万トン)	29.6%
生産量	(百万ブッシェル)	13,651	15,341	14,867	14,867	377.64 (百万トン)	▲3.1%
輸入量	(百万ブッシェル)	39	28	25	25	0.64 (百万トン)	▲10.7%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,066	16,729	16,655	16,655	423.05 (百万トン)	▲0.4%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,044	12,673	12,665	12,665	321.70 (百万トン)	▲0.1%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,486	5,805	5,775	5,775	146.69 (百万トン)	▲0.5%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,558	6,868	6,890	6,890	175.01 (百万トン)	0.3%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,176	5,478	5,500	5,500	139.71 (百万トン)	0.4%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,662	2,292	2,450	2,450	62.23 (百万トン)	6.9%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,706	14,966	15,115	15,115	383.94 (百万トン)	1.0%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,763	1,540	1,540	39.12 (百万トン)	▲12.6%
期末在庫率	(%)	9.9	11.8	10.2	10.2		1.6ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.54	4.55	4.35	4.35	25.8 (円/kg)	▲4.4%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

（調査情報部 岡田 真希奈）

ブラジル

2024/25年度トウモロコシ、大豆とも生産予測を上方修正

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は2025年3月13日、24/25年度第6回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した（表、図1、2）。この調査は、春植えの夏期作物（大豆、第1期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

24/25年度トウモロコシ生産量はさらに上方修正、前年度比6.1%増の見込み

2024/25年度のトウモロコシ生産量は、前回より74万3500トン上方修正の1億2276万300トン（前年度比6.1%増）と、前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。その理由として、作付面積が同0.4%増と前年度をわずかに上回るとともに、単収が同5.6%増とやや上回ると見込まれるためである。この

表 2024/25年度の主要穀物などの生産予測

	作付面積（千ha）				単収（トン/ha）				生産量（千トン）			
	2023/24年度	24/25年度			23/24年度	24/25年度			23/24年度	24/25年度		
		（2月予測）	（3月予測）	前年度比増減率		（2月予測）	（3月予測）	前年度比増減率		（2月予測）	（3月予測）	前年度比増減率
穀物合計	79,941.2	81,628.7	81,608.3	2.1%	3.7	4.0	4.0	8.0%	297,749.2	325,708.2	328,312.3	10.3%
トウモロコシ	21,050.8	21,191.9	21,143.8	0.4%	5.5	5.8	5.8	5.6%	115,697.2	122,016.8	122,760.3	6.1%
第1期作	3,970.1	3,708.4	3,745.8	▲5.6%	5.8	6.4	6.6	14.7%	22,962.2	23,581.5	24,857.3	8.3%
第2期作	16,437.4	16,834.1	16,748.6	1.9%	5.5	5.7	5.7	3.9%	90,255.0	96,048.2	95,515.8	5.8%
第3期作	643.3	649.4	649.4	0.9%	3.9	3.7	3.7	▲4.7%	2,480.3	2,387.1	2,387.1	▲3.8%
大豆	46,149.6	47,450.6	47,450.7	2.8%	3.2	3.5	3.5	10.2%	147,721.1	166,013.8	167,369.5	13.3%

資料：ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）

注1：2025年3月13日公表データ。

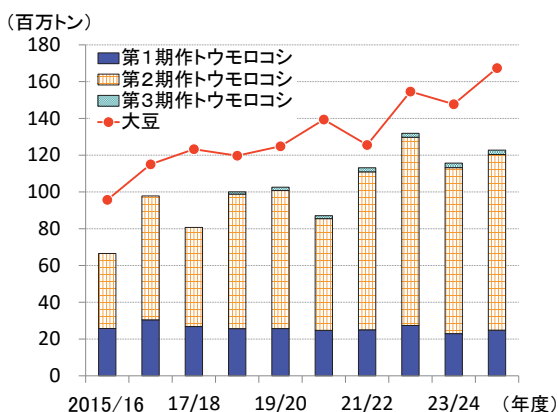
注2：第1期作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2期作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3期作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図1 トウモロコシと大豆の生産量の推移

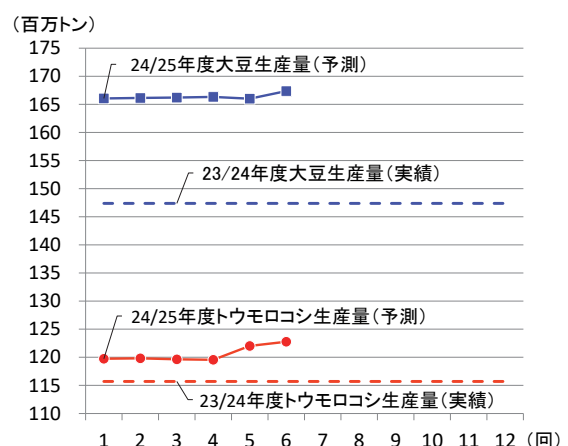


資料：CONAB

注1：2024/25年度は予測値。

注2：25年3月13日公表データ。

図2 2024/25年度の生産予測の推移



資料：CONAB

注：生産予測の第1回は2024年10月公表、以降毎月更新。

生産量は、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった22/23年度に次ぐ量となる。

内訳を見ると、全生産量の2割を占める第1期作の生産量は、前回より127万5800トン上方修正の2485万7300トン（同8.3%増）と前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。作付面積は、穀物市場価格の下落などを背景に同5.6%減と前年度をやや下回ったが、単収が同14.7%増とかなり大きく増加することが寄与している。なお、第1期作の播種作業はすべて終了している。

また、全生産量の8割を占める第2期作の生産量は、前回より53万2400トン下方修正の9551万5800トン（同5.8%増）と前年度をやや上回ると見込まれている。第2期作の播種作業は、作付面積全体の69.5%（25年2月末現在）で終了し、前年同期（同73.7%）よりわずかに遅れている。1月は降雨による大豆の収穫遅れおよび後作のトウモロコシ播種作業が遅れていたものの、2月には好天に恵まれ、作業が進捗した。

24/25年度のトウモロコシ需給を見ると、生産量が上方修正されたものの、国内需要が引き続き堅調であるため、輸出量は前回と変わらず3400万トン（同11.7%減）と、前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。

24/25年度大豆生産量は、更に上方修正

2024/25年度の大豆生産量は、前回より135万5700トン上方修正の1億6736万9500トン（前年度比13.3%増）と前年度をかなり大きく上回り、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった22/23年度の実産量を更新すると見込まれている。これは、作付面積が前年度をわずかに上回る（同2.8%増）とともに、単収が同10.2%増とかなりの程度上回ると見込まれるためである。

リオ・グランデ・ド・スル州では、天候不順により作柄に影響が出ているものの、マトグロソ州、ゴイアス州、ミナス・ジェライス州では記録的な豊作が予想されていることから、全体の生産量が上方修正された。

種播作業はすべて終了しており、1月には多雨により収穫作業の開始が遅れたものの、2月に入り天候に恵まれ作業が進捗し、前年同期の作付面積全体の48.4%が終了した。これは前年同期を1.1ポイント上回っている。

全体の生産量が上方修正される中で、24/25年度の大豆需給を見ると、今回、輸出量は1億574万8000トン（同7.0%増）と、1億トンを超える数量が見込まれている。

参考1 ブラジルのトウモロコシ需給動向

（単位：千トン）

年度	2021/22	22/23	23/24	24/25	増減率（%）
期首在庫量	13,515.3	8,095.9	7,201.3	2,046.8	▲71.6
生産量	113,130.4	131,892.6	115,697.2	122,760.3	6.1
輸入量	2,615.1	1,313.2	1,644.7	1,700.0	3.4
供給量	129,260.8	141,301.7	124,543.2	126,507.1	1.6
消費量	74,534.6	79,466.0	83,995.5	86,970.6	3.5
輸出量	46,630.3	54,634.4	38,500.9	34,000.0	▲11.7
需要量計	121,164.9	134,100.4	122,496.4	120,970.6	▲1.2
期末在庫量	8,095.9	7,201.3	2,046.8	5,536.5	170.5

資料：CONAB

注：2025年3月13日公表データ。

参考2 ブラジル大豆需給動向

(単位：千トン)

年度	2021/22	22/23	23/24	24/25	増減率 (%)
期首在庫量	11,180.1	8,725.3	7,162.5	786.6	▲89.0
生産量	126,479.6	155,713.4	147,721.1	167,369.5	13.3
輸入量	419.2	181.0	821.5	500.0	▲39.1
種子/その他	2,862.5	3,339.5	3,402.5	3,615.0	6.2
輸出量	78,730.1	101,862.6	98,812.9	105,748.0	7.0
加工量	47,761.0	52,255.0	52,703.1	57,052.9	8.3
期末在庫量	8,725.3	7,162.5	786.6	2,240.2	184.8

資料：CONAB

注：2025年3月13日公表データ。

(調査情報部 平石 康久)

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

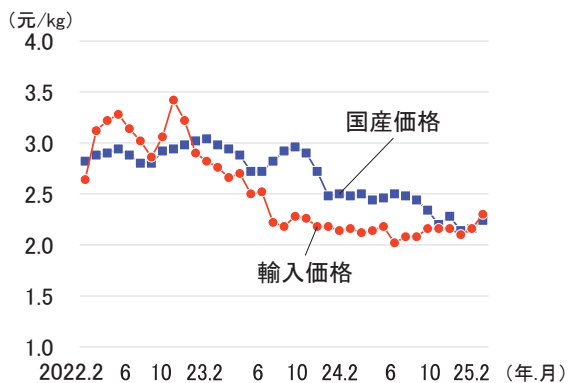
25年2月の国産トウモロコシ価格、輸入価格の上昇で価格が逆転

中国農業農村部は2025年3月21日、「農産物需給動向分析月報（2025年2月）」を公表した。この中で、25年2月の国産トウモロコシ価格は前月からわずかに上昇した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、供給面では輸入量が減少して国産が中心と

なり、供給に一定の制約が生じているとみられる。需要面では、春節（旧正月）後、飼料およびコーンスターチ製造企業などが徐々に生産を再開したことに加え、養豚部門の利益改善などを背景に、これら企業による活発な在庫拡充が報告されている。さらに、政府によるトウモロコシ貯蔵の強化や、多くの穀物備蓄倉庫がトウモロコシの購入価格を引き上げたことが相まって、国産トウモロコシ価格は上昇している。このため、短期的には引き続き上昇と見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省^{かんとう}黄埔港^{こうほ}到着（関税割当数量内：1%の関税＋25%の追加関税）は、25年2月が1キログラム当たり2.30元（48円：1元＝20.89円^注）、前月比6.5%高）とかなりの程度上昇した。同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）も同2.24元（47円、同3.7%高）とやや上昇したものの、輸入トウモロコシの上昇幅が大きかったことで、22年11月以来、

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

国産価格が輸入価格を上回っていた状況が逆転した。

25年2月の国産大豆価格、春節後の需要増からわずかに上昇

2025年2月の国産大豆価格は、前月からわずかに上昇した（図2）。同月の大豆需給を見ると、春節後から飼料向けの大豆油かす需要が高まっており、これが搾油企業の利益率改善にもつながっている。また、企業などによる国産大豆の買い取り価格の引き上げや、新規買い取り拠点の拡充などが、現物

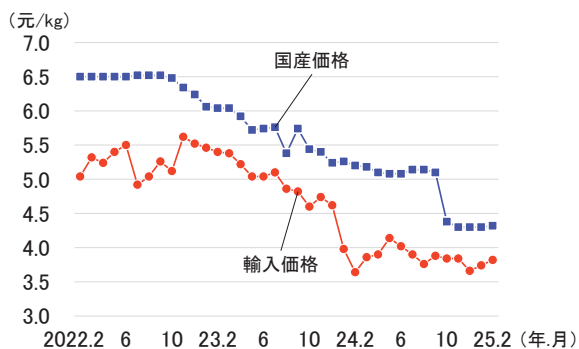
価格と先物価格に好影響を与えている。短期的には、気温の上昇や耕作準備などの要因から、農家の販売意欲がさらに高まる一方、好調な需要から市場在庫量が減少することで、国産大豆価格は安定して推移すると見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、25年2月が1キログラム当たり3.86元（81円、前年同月比18.9%安）と前月から上昇に転じたものの、前年同月を大幅に下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同4.32元（90円、同17.0%安）と同じく上昇に転じたものの、前年同月を大幅に下回った。同月の輸入大豆価格（山東省青島港引き渡し価格、課税後）が同3.82元（80円）となったことで、輸入と国産の価格差は前月の同0.56元（12円）から同0.50元（10円）に縮小した。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年3月末TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引き渡し価格（課税後）。